

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



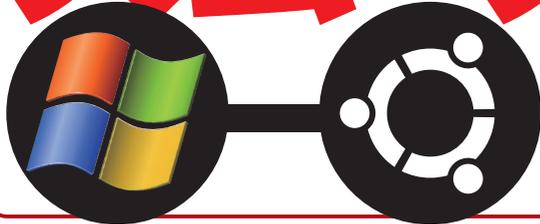
この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、
<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックしてください。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/u-bon (ブログ『[Viva! Ubuntu!](#)』)
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.05」(<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2010年8月31日発行

Ubuntuと同じアプリを使って Windowsと スムーズ連携テク



UbuntuとWindowsをデュアルブートにしている場合、WindowsとUbuntuを複数のPCで使い分けしている場合は、同じアプリケーションを利用しよう！作成したファイルを相互に開け、同じ画面やメニュー構成で使うことができ便利だ。同じアプリでスムーズに連携を図ろう！

●文/u-bon (ブログ「Viva! Ubuntu!!」)

共通アプリなら連携もカンタン

クロスプラットフォームアプリを積極的に使う

ひとりで複数のパソコンを所有する場合、デュアルブート環境など、UbuntuとWindowsを使い分ける機会も多いだろう。そんなとき、両者で同じアプリケーションを利用できると便利だ。メニューの配置や設定項目などが共通であれば、OSが変わっても同じ使用感で戸惑うことなく作業ができる。作成済みのファイルも両方で編集できる。クロスプラットフォームのアプリを中心にピックアップしてみた。

連携 Google Chrome

WebKitレンダリングエンジン搭載により高速に動作するGoogle Chromeは、拡張機能も

開発版のダウンロード



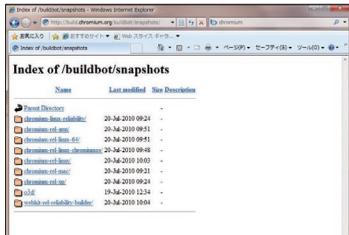
↑ Chromeのインストール後、Ubuntuソフトウェアセンターから、「beta」版、「unstable」=開発版がインストールできる。

Chromeのダウンロード



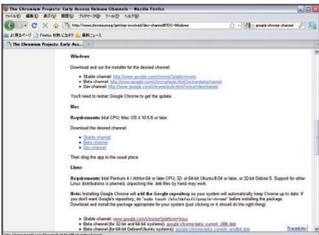
<http://www.google.co.jp/chrome>
 ↑ 「.deb」版をインストールすると、「stable」版が導入され、リポジトリに登録される。

ChromiumのDaily Builds版



<http://build.chromium.org/buildbot/snapshots/>
 ↑ Windowsの場合、開発途上版は各OS向けに公開されているページから入手する。

「Channel」経由での入手



<http://dev.chromium.org/getting-involved/dev-channel>
 ↑ WindowsなどではChannelを利用し、開発版のインストールが可能となる。

Chromiumのソースを追加



↑ Ubuntu TweakではChromiumの「Daily Builds」版のソース追加が可能だ。

Windows側で同期の反映



↑ 開発版なら、UbuntuのChrome拡張機能やブックマークなどをWindows側でも同期できる。

同期の設定画面

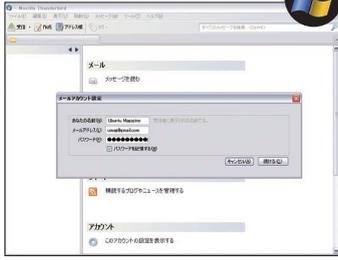


いち早く最新機能を試すことができる開発版では、同期の設定項目が増えている。

数多くリリースされ、ますます進化を遂げている。現状では、Stable、Beta版の他、Unstable版が入手可能だ。一方オープンソース版となるChromiumは、通常版の他に開発版となるDailyBuildが入手可能だ。このように多くのバージョンがリリースされているChrome/Chromiumだが、最先端機能を試すために、いずれかの開発版を導入しておくといだろう。すでに、拡張機能の同期にも対応し、WindowsでもUbuntuでも同じ環境で利用可能となっている。

ちよい古PC完全再生テク Windowsとスムーズ連携テク

Windows版



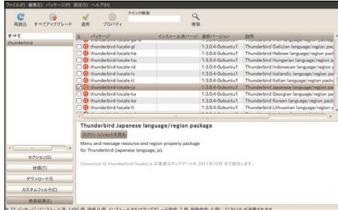
↑公式ページからインストールを。Ubuntu版同様Gmailアカウントの設定もカンタンに。

Thunderbird



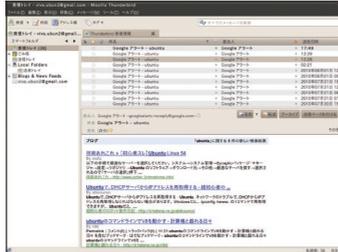
<http://mozilla.jp/thunderbird/>
↑公式サイトから各国語版がOSごとにダウンロード可能。

日本語化ファイル



↑表示/メニューが日本語化されていない場合、「thunderbird-locale-ja」を追加インストールしよう。

他のOS版と同じ



↑Ubuntuソフトウェアセンターからダウンロード&インストールできる。

連携

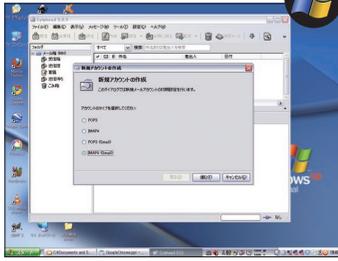


Mozillaプロジェクトにより開発されているThunderbirdは、Firefox同様に各国語版/各OS版が用意されており、Windowsでも、Ubuntuでも、あらゆる環境で同じ操作感で利用可能となっている。また、アドオンによって機能拡張ができる点もFirefoxと同様で、スケジューリング管理機能を付加し、さらには、Googleカレンダーとの同期が可能。アドオンも利用可能だ。バージョン31からはGmailアカウントの設定が簡単になり、IDとパスワードを入力するだけで自動で設定できるように。もちろんマルチアカウントにも対応している。

Windowsでも同じ操作感

Ubuntuの場合、Ubuntuソフトウェアセンター、Synapticパッケージ・マネージャで同名で検索して追加インストールができる。新バージョンがリリースされてからパッケージング、検証が終了するまで、しばらく時間がかかるが、アップデート可能になると、システムトレイに通知が現れ、アップデート・マネージャにより簡単に最新版へ更新される。インストールの手順によっては、メニューが英語のままになっていることがある。その場合、日本語ローケルのパッケージ「thunderbird-locale-ja」を追加すれば日本語化される。

Windows版



↑Ubuntu版同様、Gmailのアカウント設定がとても簡単になっている。

Sylpheed公式ページ



<http://sylpheed.sraoss.jp/>
↑Ubuntu版はUbuntuソフトウェアセンターから追加できる。

連携



WindowsでもUbuntuでもサクサクと動く軽量のメールクライアント「Sylpheed」。Windowsでは古くから人気の「Becky」に似たルック&フィールで利用でき、マルチアカウント、スレッド表示にも対応している。有償版もあり超高速検索が可能だ。Thunderbird同様に、新規アカウント作成時に、通常のメールアカウントの設定はもちろん、Gmailの設定をPOP3、IMAP4から選ぶようになっており、ウィザード形式により、とても簡単に設定ができる。Windows、Ubuntu版共に同じアイコンメニューで迷うことなく利用できる。

ビデオ通話も可能



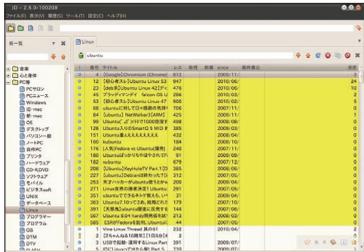
↑UbuntuでもUVC規格のウェブカムならすぐに認識され、ビデオ通話も可能となる。

連携



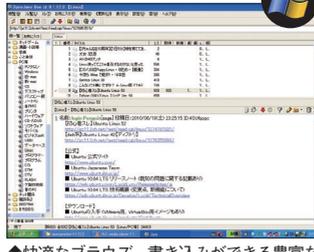
今やインターネット電話の代名詞的存在となったSkype。Skype同士であれば無料通話が無制限に可能となっており、低速な回線でも高音質で安定した通話が可能となっている。すでにバージョン4.2がリリースされているWindowsに対し、Ubuntu版は2.1ベータ版という状況だが、音声通話、ビデオ通話共に基本機能は備えており、WindowsやMac、スマートフォンとUbuntuで相互に通話が可能だ。有料オプションにより格安に国際通話がかかけられたり、固定/携帯電話との相互通話ができる着信用の電話番号も取得できる。ビデオ通話は、USBの拡張規格「UVC (USBビデオクラス)」に準拠したウェブカムであれば、USBポートにつなげれば、すぐに認識する。オプション画面で簡単な設定を行えば、すぐに使えるようになる。

JD



↑メニュー構成はシンプル。[表示]メニューで2/3ページの切り替えができる。

Open Jane Doe



↑快適なブラウズ、書き込みができる豊富なメニュー構成となっている。

オープンソースで開発されている2ちゃんねるブラウザ「Open Jane Doe」。通常のウェブブラウザによるアクセスに比べて、2ちゃんねるに対する負荷を軽減し、快適に読み書きができる豊富な機能を有しながらも軽快に動作し安定性が高いことで定評がある。ちなみに、この「Jane Doe」は、米国で身元不詳、または報道での匿名としてよく用いられる(つまり2ちゃんねるで言う「名無しさん」)。このJane DoeライクにUbuntu上で利用できるのがJD。アスキーアートが崩れないように表示させるにはIPAモナーフォントを追加しておく。

連携



連携 Team Viewer

インターネット経由のリモート接続が簡単!

外出先や会社などから自宅のパソコンにリモート接続して遠隔操作を行ったり、インターネット経由で遠隔サポートを行う方法はいくつもあるのだが、接続先のルーターのポートを開けたりファイヤウォールの設定を変更したり、かなり煩雑な作業が必要となる。『Team Viewer』であれば、これらのような設定変更は一切必要なく、接続される側サーバーの画面に表示される9桁のIDと4桁のパスワードをクライアント側

の画面に入力するだけというシンプルなステップで、インターネット経由でのリモート接続が可能となる。リモートでのサポートやオンライン会議を行う場合、接続される側のIDとパスワードを電話やメールで連絡することになるがパスワードは起動ごとに毎回変わるので安心して利用できる。一方、外出先から自宅のパソコンにアクセスするなど、パスワードを固定したい場合には、好みのパスワードを設定しておくこともできる。この場合、パスワードの管理には充分注意するようにしよう。リモート接続時の画面表示は、ブロードバンド回線であればTrueカラーで、回線の状態が悪い場合には自動で256色に切り替えら

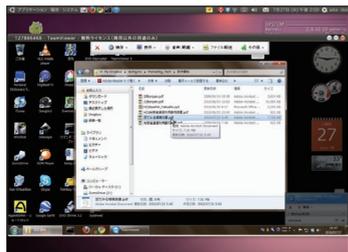
れるようになっていて、画質、速度のどちらを優先するかは、画面上部に表示されている操作メニューから切り替えられる。解像度を自由に変更しての操作もできる。操作メニューにある通り、チャット機能、電話会議機能、ファイル転送機能なども搭載している。リモート接続に必要なあらゆる機能が盛り込まれている。これだけの機能が、商用以外の個人利用であれば無料で利用でき、ビジネスでの利用であっても低価格で購入可能となっている。接続用のアプリケーションはWindows、Mac、Linux、iPhone/iPadに対応。Ubuntuでは「deb」版をインストールしよう。64ビット版も用意されている。

Team Viewerホームページ



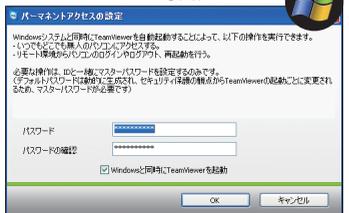
<http://www.teamviewer.com/>
↑ Windows、Mac、Linux、iPhone/iPad 版を無料でダウンロードできる。

Ubuntuからアクセス



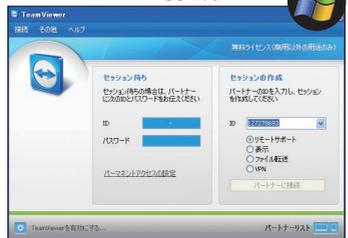
↑ 簡単なステップで、インターネット経由でWindows機に接続しリモート操作できる。

パスワードの設定



↑ パーマネントアクセスの設定により、外出先から自宅のPCをリモート操作できる。

セッションの作成



↑ 接続先のIDを入力し「パートナーに接続」をクリック、パスワードを入力するだけ!



Windowsからアクセス

← Windows側からUbuntuへリモート接続するところ。リモートオフィスとしての協作業も充分に行えそうだ。

連携 Adobe Reader

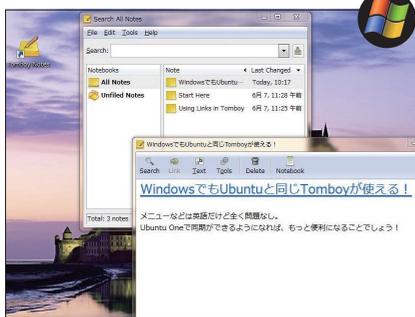
Windowsと同じ操作感で利用

Ubuntuは標準でPDFに対応しており、印刷機能を持つアプリケーションであれば、印刷命令によりPDFファイルへの出力ができる。PDFは、ダブルクリックすれば、ドキュメント・ビューア(Evince)が開いて内容を参照できる。通常の閲覧ならこれで充分だが、署名、セキュリティ機能、Acrobat.comでのコラボレーション機能など、純正のリーダーならではの機能を利用したり、Windowsと同じ操作感で利用するために追加導入しておく。

連携 Tomboy

WindowsでもMacでも同じメモを共有!

単なるメモ帳という枠を越えたカード型データベース・ソフト的に情報整理ツールとして利用できるのがUbuntuでおなじみのTomboy。Windows、Mac版も公開され利用可能だ。ハイパーリンク、HTMLへの出力に対応し、全てのメモの検索も可能。書いた内容は、自動保存されるが、この保存先を30ページで紹介するDroptboxに変更しておけば「同期」メニューを選ぶだけで、どのPCからでも同じデータを共有できるようになる。



「同期」で同じデータを共有できる

← Windows版は「.NET 3.5」、「Novell's gtk-sharp」の2.12.8以降を事前にインストールしておく必要がある。

<http://projects.gnome.org/tomboy/>

豊富な機能の純正リーダーをUbuntuで



← 日本語 Remix 版であれば [システム] - [システム管理] - [日本語セットアップ・ヘルプ] から簡単に導入ができる。

ちよい古PC完全再生テク Windows とスムーズ連携テク

各OS版がダウンロード可能



<http://pinta-project.com/>

↑このページ経由で各 OS 版がダウンロード & インストールできる。

通常利用ならコレで充分!

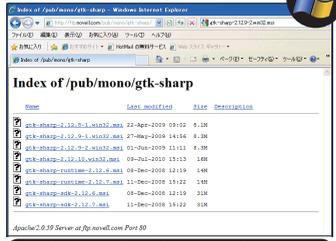


↑画像の回転、変形、エフェクト処理などが軽快に動作する。複数レイヤーにも対応。

連携 Pinta

すでに実用レベルの画像編集アプリ
Adobeの「Photoshop」に匹敵する機能を有し、無料で利用できる画像編集ソフトとして昨年登場し、一躍脚光を浴びた「Paint.NET」。今ではLinux版もリリースされているが、元々はWindows向けのこのソフトを元に、オープンソースのツール群によりソースコードを書き直して、注目を集めているのが「Pinta」だ。Photoshopをシンプルにしたようなインタフェースで軽快に動作し、Photoshop形式の画

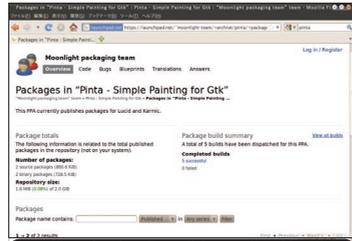
GTKツールキットの導入



<http://ftp.novell.com/pub/mono/gtk-sharp/>

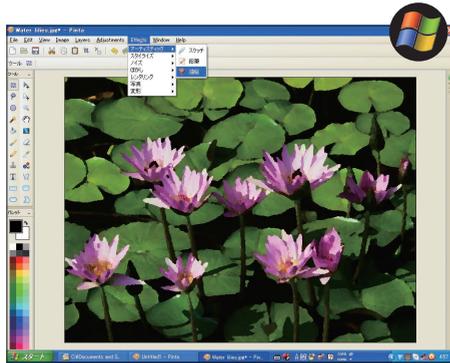
↑ノベル社のサイトからコンパイル済みのものを入手できる。

Ubuntuは.deb版を入手



<https://launchpad.net/~moonlight-team/+archive/pinta/>

↑公式ページからリンクされているページから最新の.deb版がダウンロードできる。



← Effectsメニューで画像を簡単に加工できる。驚くほど高速に動作する。

フィルター処理も高速

像の読み込みも可能だ。Ubuntu版は、公式ページからリンクが張られているLaunchpad上のプロジェクトページから「.deb」版をダウンロードして利用する。
Windowsの場合には、「.Net Framework 3.5」以上、GTKツールキットの2・12・9以上が事前に導入されている必要がある。
原稿執筆時点でのバージョンは0.4。まだ開発初期段階であるものの、レイヤー機能や回数制限のないアンドウ/リドゥ機能も搭載し、画像の編集機能については基本的な機能を網羅。高速に起動し、画像のリサイズ、回転、変形、色相、コントラストなどの調整も軽快に動作する。実用的なエフェクトも

搭載。すでに実用段階にあると言っているだろう。
「Paint.NET」は元々マイクロソフトによる「.NET Framework」の機能を利用している。Pintaは、このソースコードを元に、Monoで書き直している。Monoとは「.NET Framework」互換の環境を実現するためのオープンソースソフトウェア群だ。さらには、オープンソースのグラフィックエンジンである「Cairo」とGUIツールキットの「GTK」が用いられている。
ヘルプから参照できる「バージョン情報」で、このソフトで利用されているライブラリのリストが参照できる。一般的な画像編集ならば十分な機能を備えている。

無料で利用できるのが「Inkscape」。画像に文字を合成しウェブグラフィックスとして利用したり、ペラもののフライヤーなど印刷物の制作に便利なアプリケーションだ。1枚ごとの読み込みとなるがPDFファイルの編集も可能。PNG、JPEGなどビットマップ画像への書き出しにも対応。

連携 ドロー系高機能 画像編集ソフト

連携 Inkscape

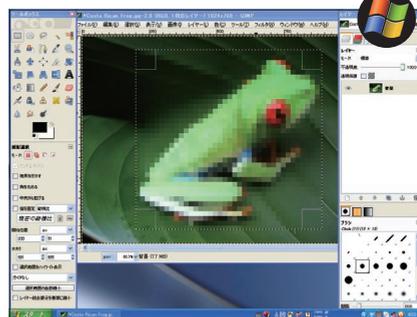
PintaやGIMPがAdobeのPhotoshopと同じベイント系の画像編集アプリならば、Illustratorと同じドロー系の画像ソフトとして、オープンソースで開発され、無料で利用できるのが「Inkscape」。画像に文字を合成しウェブグラフィックスとして利用したり、ペラもののフライヤーなど印刷物の制作に便利なアプリケーションだ。1枚ごとの読み込みとなるがPDFファイルの編集も可能。PNG、JPEGなどビットマップ画像への書き出しにも対応。



Windows版も 同じ インタフェース

← Windows版は公式ページから。Ubuntu版と全く同じ構成で利用できる。

<http://www.inkscape.org/>



Windowsでも GIMP

← Windows版は起動に多少時間はかかるが、起動してしまえばあらゆる画像編集機能が快適に利用できる。

<http://www.gimp.org/>

連携 HandBrake

H264時代の 動画形式変換アプリ

最近では、「.m4」という拡張子が付いた動画を多く見かけるようになってきているが、このファイルフォーマットには、MPEG-1/2/4、そしてMPEG-4 AVC形式の動画を格納できる。この中でも「MPEG-4 AVC」は、ハイビジョン時代の動画圧縮規格として一躍主役の座に躍り出たH・264となる。従来、DVDにも採用されていたMPEG-2に比べて2倍以上の圧縮効率を実現しているときれ、携帯電話か

らハイビジョンTVに至るまで、幅広く利用されている。YouTubeやニコニコ動画などのネット動画も軒並みH・264形式に対応。iPhone/iPadでも動画のメインの形式として採用されている。

このH・264に対応し、マルチプラットフォームにも対応する動画変換アプリが「HandBrake」。iPhone、iPodをはじめとする再生機器に対応したプロファイルが用意されており、「Edit」、「Profile」で確認できる。再生環境と好みに合わせて、動画、音声のコーデックなどを選択し、独自のプロファイルを作成することも可能だ。

コーデックがインストールされ

ていれば、変換元は各種動画形式に対応。DVDディスク、ISOファイルからダイレクトにH・264形式のMP4、MKVファイルに変換ができる。

変換する動画を「Queue」に次々と登録すれば、数多くの動画変換処理を連続して行なえる。2時間を超える動画をiPhone向けのプロファイルで変換してみると、900MB以下に収まる。320×128ドットという画像サイズながらも字幕も意外と読み取れて、ストレスなく再生鑑賞が可能だ。インストールは、各OSとも公式ページ経由で。UbuntuではPPAのリポジトリを登録しておくことで常に最新版に更新可能となる。

可能となる。

全く同じ構成

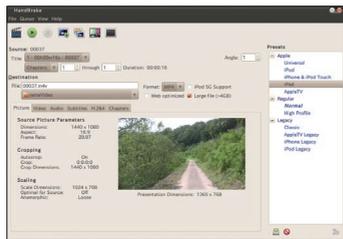
←ダウンロードサイトは、公式ページからリンクが張られている。全OSで同様に利用できる。

公式ページ



<http://handbrake.fr/>
↑ Mac版、Windows版の他、Ubuntu,Fedora版、CLI版がダウンロードできる。

プリセットでラクラク



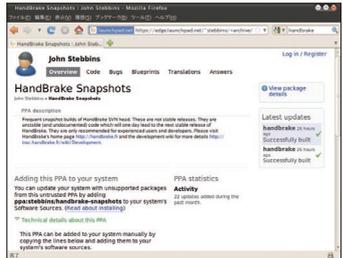
↑再生機器に対応したプリセットを利用すれば変換はとても簡単。

Windowsでの利用

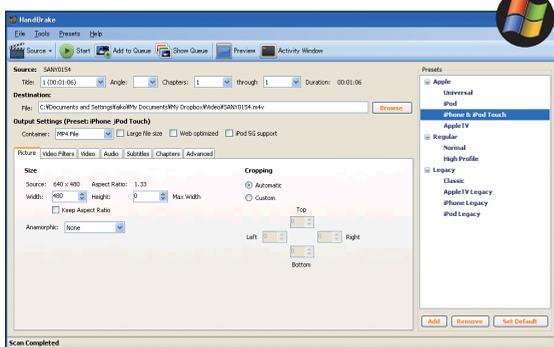


↑Windowsでは「.Net Framework 2.0」が必要。あらかじめインストールを。

Ubuntu版はPPAを利用



↑Ubuntuでは、公式ページからリンクが張られているPPAのリポジトリを登録して利用。



Windows版の入手



<http://www.videolan.org/vlc/>
↑WindowsやMac版は公式ページからダウンロードできる。

豊富な再生機能を搭載



↑Ubuntu版はUbuntuソフトウェアセンターからインストールが可能。

オーディオソースによるクロスプラットフォームのメディアプレイヤーである『VLC』は、対応するコーデックの多さが最大の特長。多くのコーデックを内蔵しており、Windows、MacのほかLinuxでも数多くのディストリビューションに対応している。全てのOSで同一のメニュー、インタフェースで利用が可能となる。グラフィックイコライザーやビデオエフェクト機能を搭載し、メディア再生を好みに応じてアレンジできる。ス

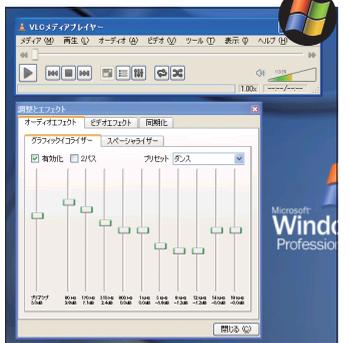
連携 VLC

音楽・動画の 万能プレイヤー

キンをダウンロードして外観を変更することも可能となっており、見た目以上に高機能なメディアプレイヤーだ。プレイリストを開くとPC内のメディアの再生、DLNAなどのLAN上にあるサーバにあるメディアの再生、ポッドキャストを始めとするインターネット上のコンテンツも再生できる。ぜひこのプレイリストは使いこなしたい。再生速度の変更機能も搭載。速度を速くしても、スローにしても音声のピッチが変わることなく再生できるので、映像の時短再生や、音声の聞き取り、音楽の耳コピに便利なものになっている。最新版ではH・264やGoogleが新たなウェブ動画規格としてリリースしたWebMフォーマットにも正式対応。ひところH・264の動画が青みがかったり再生されるトラブルがあったが、問題は解消されている。

グライコも搭載

最新版ではH・264やGoogleが新たなウェブ動画規格としてリリースしたWebMフォーマットにも正式対応。ひところH・264の動画が青みがかったり再生されるトラブルがあったが、問題は解消されている。



←グライコや時短/スロー再生にも対応。見た目以上に高機能なメディアプレイヤーだ。

OS間のファイル共有はDropboxで!!

連携 Dropbox

複数の異OS間からスマートフォンの同期

WindowsとUbuntuの混在環境でパソコンを利用する場合、動画、音楽、画像、オフィス書類など、両者で相互に同じデータを利用したいと思うのが当然だ。Ubuntuのパソコンなら、Ubuntu One「フォルダの同期」を行えるが、残念ながらUbuntu OneにはまだWindows用クライアントはない。

いので、Dropboxを利用しよう。Windowsだけでなく、MacやiPhone、Android向けのクライアントもある。

公式ページからダウンロード＆インストールすると、Ubuntuでは「Dropbox」、Windowsでは「My Dropbox」という所定のフォルダができる。この中にファイルを保存することで、インターネット上に置かれたファイルサーバの自分専用の区画にファイルが格納される。逆に、他のPCからDropboxに保存しておいたファイルは自動的にインターネット

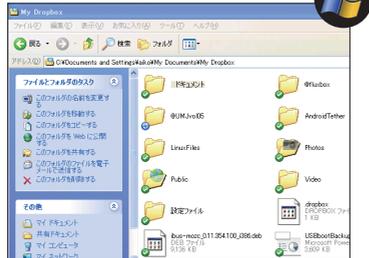
ト経由でDropboxフォルダにダウンロードされる。この時、同期処理中であることを、青いマークのサインで示し、同期処理が終われば緑のチェックマークに変わる。すなわち、Dropboxフォルダの中身は、どのパソコンからでも同じように見え、共有できるというわけだ。

GNOME以外の環境で使う場合には

FluxboxやFMWなど軽量のウィンドウ・マネージャでDropboxを利用する場合は、ログイン後の自動起動設定に、「dropbox start -i」という起動コマンドを追加しておく。

なお、DropboxのWikiページでは、CLI環境でDropbox

緑マークで同期終了



↑Windowsでも青いマークは同期中。緑のチェックマークは同期済みであることを示す。

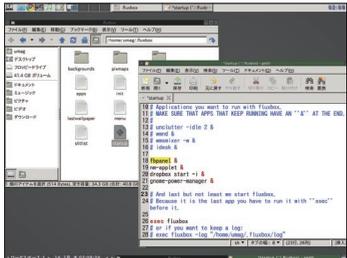
Dropboxのインストール



↑同期済みファイル/フォルダはWebサイトでログインして参照/ダウンロードが可能。

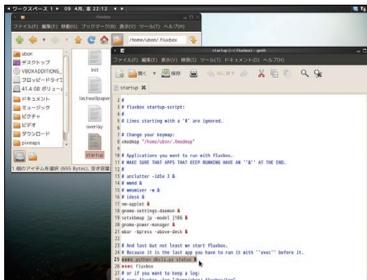
OSに応じたアプリをダウンロードし、

Fluxboxでの自動起動



↑自動起動の設定ファイルに「dropbox start -i」と、起動コマンドを追加しておく。

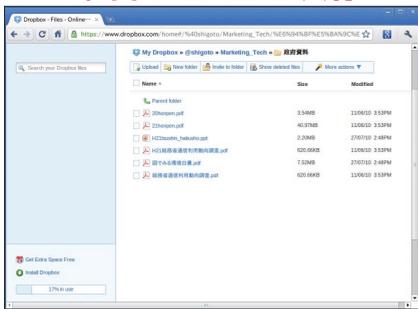
CUI版も利用可能



↑テキスト環境下での利用法も紹介されている。詳細はWikiで公開されている。

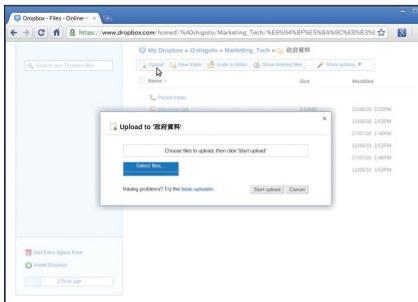
<http://wiki.dropbox.com/TipsAndTricks/TextBasedLinuxInstall>

サイト経由でのファイル共有



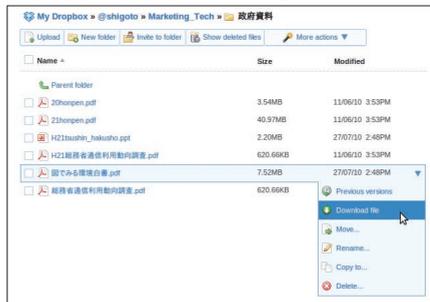
↑ウェブで「Invite to folder」をクリックすると、他アカウントを共有して作業を進められる。

ファイルのアップロード



↑ファイルをひとつずつ、アップロードしておくこともできる。

ファイルのダウンロード



↑ファイルを参照し、アップロード & ダウンロードすることもできる。



iPhone/ iPadとの連携

←スマートフォンに対応するフォーマットであれば、書類を直接開いて参照できる。

Padであれば、打ち合わせ中に仕事の書類を確認したり、小説やコミックを読んだりもできる。iPhone/iPadでは、.iPhone/.iPad、Androidなどのスマートフォン向けのアプリケーションもリリースしている。PCのウェブアクセスによるファイル閲覧と同様に、外出先でファイルの参照ができる。すぐに起動できるスマートフォンだけに、PCにくらべて格段に機動性が高いものとなる。PDF、PPT、XLS、DOC などそれぞれのスマートフォンに対応したファイルフォーマットであれば、直接開いて参照できる。なお、OpenOffice独自のファイルフォーマットには対応していないので、OOoでMS Officeのファイル形式で保存しておくといだろう。これにより、移動中に仕事の書類を確認したり、小説やコミックを読んだりもできる。iPhone/iPadでは、.iPhone/.iPad、Androidなどのスマートフォン向けのアプリケーションもリリースしている。PCのウェブアクセスによるファイル閲覧と同様に、外出先でファイルの参照ができる。すぐに起動できるスマートフォンだけに、PCにくらべて格段に機動性が高いものとなる。PDF、PPT、XLS、DOC などそれぞれのスマートフォンに対応したファイルフォーマットであれば、直接開いて参照できる。なお、OpenOffice独自のファイルフォーマットには対応していないので、OOoでMS Officeのファイル形式で保存しておくといだろう。これにより、移動中に仕事の書類を確認したり、小説やコミックを読んだりもできる。

スマートフォンで ファイル操作

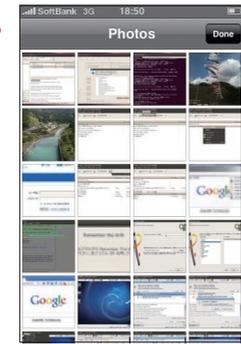
デスクトップPC、ノートPC、ネットブックに加えて、スマートフォンを併用すればさらに利便性が広がる。

Dropboxでは、.iPhone/.iPad、Androidなどのスマートフォン向けのアプリケーションもリリースしている。PCのウェブアクセスによるファイル閲覧と同様に、外出先でファイルの参照ができる。すぐに起動できるスマートフォンだけに、PCにくらべて格段に機動性が高いものとなる。PDF、PPT、XLS、DOC などそれぞれのスマートフォンに対応したファイルフォーマットであれば、直接開いて参照できる。なお、OpenOffice独自のファイルフォーマットには対応していないので、OOoでMS Officeのファイル形式で保存しておくといだろう。これにより、移動中に仕事の書類を確認したり、小説やコミックを読んだりもできる。



音楽の直接再生

←サウンドファイルはタップすることで、ストリーミング形式で直接再生される。



「Photos」 フォルダ

←画像データはサムネイルで一覧表示される。スライドショーにも対応。

参考資料を開いて見せることもできそう。また、プレゼン時にノートPCに不具合があった際のバックアップとしても役立つ。

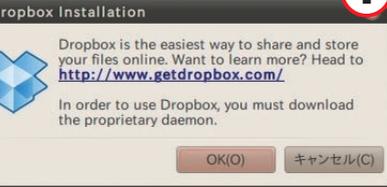
「Photo」フォルダをiPhone/iPadで開くと、画像ファイルがサムネイルで一覧表示されるので、目的の画像をみつけやすい。スライドショーにより自動表示させることも可能だ。音楽データであれば、3G回線でも直接再生できてしまう。容量の関係でスマートフォンに入れておけない楽曲ファイルを聴きたくなった時に便利だ。

設定中の表示 ②



←すでに Dropbox を導入済みの場合の設定中の画面。終了するまでしばらく待とう。

追加のDropboxのインストール ①



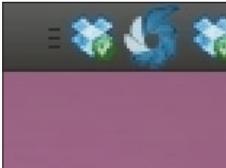
↑例として、「Dropbox-share」、「Dropbox-share」というフォルダを作成しておく。ターミナルを開き、下記コマンドを実行しよう。「HOME= \$HOME/.Dropbox-share /usr/bin/dropbox start -i」

複数アカウントを併用する便利ワザ

仕事用とプライベートに使い分ける

Dropboxの使い方を工夫すれば、複数のアカウントを取得し、1台のPCで同時に利用することも可能だ。たとえばプライベート用と仕事用というように使い分けができるようになる。仕事用の中にはアクセス権を設定し、社外の仕事仲間とファイルを共有することも可能だ。

アイコンが追加される ⑤



↑成功すれば、通知領域に Dropbox のアイコンが別途追加される。

必ずチェックを! ④



↑画像のようにチェックを入れて、「Change...」ボタンで「Dropbox-share」フォルダを選択。

追加アカウントの設定 ③



↑「進む」をクリックして、新たなメールアドレスを用いて、別途アカウントを取得する。

自動起動アプリへ追加 ⑧



↑コマンド欄に「/home/xxxx/DropboxAltStarter.sh」(xxxxはログインアカウント)と入力。

パーミッションの設定 ⑦



↑端末を開き、次のコマンドを実行。「chmod 755 ~/DropboxAltStarter.sh」

自動起動設定 ⑥



↑画像と同じ内容をエディタに入力、「DropboxAltStarter.sh」という名称でホームディレクトリに保存する。